

認可団体代表者 殿
認承団体代表者 殿

公益社団法人 日本詩吟学院
理事長 田邊岳璋

感染症流行状況における吟詠活動について（ガイドライン） 【追補版】

昨春以降の新型コロナウイルス感染症流行状況下で、日常生活も制約された中、わたくしたちの吟詠活動も従前通りには行えない状況が続いています。幸いにして日本詩吟学院での大規模な集団感染は現在のところ報告されておりませんが、これも各団体代表者各位をはじめ指導者・運営者の皆様ならびに会員各位の忍耐と努力の賜と感謝申し上げます。また、この間、個々の日常生活の中で感染された皆様には、心よりお見舞い申し上げ、ご快復を祈念申し上げます。

コロナ感染症の問題が発生した当初から、教室や審査会・発表会等々が通常通りに開催することができないと、楽しみが無くて会員が減少してしまうといった懸念の声も少なからず聞こえてきました。人間が社会的生物である以上、吟詠活動にもそういった側面があることは否定いたしません。わたくしたちが勤しんでいる吟道はそれだけではありません。今までも繰り返し申し上げてきました通り、優先すべきは皆様の安全であり団体・個人としての社会的責任です。どうぞ今一度、「吟道精神」をお読みいただき、指導者・運営者の皆様におかれては「学院憲章」にも併せて目を通していただければと存じます。

現在、高齢者の皆様をはじめとして新型コロナウイルスのワクチン接種が進みつつありますが、それをもって俄かにコロナ以前の生活様式に戻るわけにはいかないのは、報道等でご承知の通りです。対象各世代への接種と国内での集団免疫の確保がみられるまでは今暫く時間がかかる見通しです。「自分はワクチン接種が済んだから大丈夫」といった無責任なお考えの方はいらっしゃらないと信じてますが、ここからが、気持ちを引き締め収束に向かって我慢する大事な期間のようです。どうか、浮薄な情報に流されることなく、日本詩吟学院の会員たる自負と誇りのもとに、日々の吟詠活動のための判断と細心の注意を引き続きお願いするものです。

本通達は、前述の趣意により令和 2 年 7 月 1 6 日付 2 公日総第 0 5 2 号「感染症流行状況における吟詠活動について（ガイドライン）」（以下「前回ガイドライン」）で

のお願いに、その後約1年を経過しての補足をし、改めてお知らせするものです。前回ガイドラインと併せてお読みいただくようお願いいたします。併せて、各団体代表者におかれましては、**本紙の写しを回付等して頂き、団体内の教室運営者に至る担当者への周知**をお願い致します。

なお、本内容は機関誌『吟道』令和3年7月号ならびに日本詩吟学院公式ホームページにも掲載予定です。

前回ガイドラインの骨子

1. 感染防止の基本的な考え方
2. 指示に従う
3. 運営の工夫をする
4. 感染者が発生した時へ向けた対応
5. 補足

これらは、基本的に現在も引き続き共通して注意し実施すべき事柄ですので、団体・個人いずれにおいても改めて注意喚起をお願いいたします。

前回ガイドラインは、機関誌『吟道』令和2年8月号ならびに当学院公式ホームページでもご覧いただけますが、再発行を希望される団体は総本部事務局へご請求いただければ送付いたします。

追補内容

1. 主催者・運営者としての注意点
(1) 基本的な考え方で誤解しやすい点

①施設が貸してくれるから大丈夫？

使用するホールや会議室等の施設が貸してくれるから大丈夫という根拠で催事を実施するのは大いに危険です。同様に施設が定員の〇〇%までなら収容して良いと言っているから大丈夫というのも極めて危険です。

詩吟の催事が、映画や一般のコンサートなどと似て非なる点のひとつは、集合する方々が基本的には知り合い同士であることが多いという点です。

全国<地区<市町村など<団体・教室と対象が狭くなればなるほど互いが知り合いである可能性は高くなります。

その分、往復も含めロビーやトイレなど運営者が管理しづらい場面場所での接触危険性が高くなります。

②受付や舞台上・客席での距離を確保できているから大丈夫？

詩吟の催事の場合、特に発表会や大会等では、ロビーや客席にいる観客と舞台上に上がるいわゆる演者が同一あるいは密接な関係にあることが多くあります。

よって、演目中也常時移動があり、リハーサル室や舞台袖など危険な場面場所が多くあります。

③コロナ対策で従来よりも係員を増員したから大丈夫？

当然ながらそんなことはありません。対策上チェックすべきポイントを事前に

周知し（当日集合して説明することも危険な行為と心得て）、係員自体が密な状態にならないよう配慮が必要です。また、係員自身が発声を控えるようプラカード等での誘導・注意に徹するなどの措置も必要です。

（2）従来までの実施方法を全て見直すこと

- ①教室・審査会・研修会・講習会・鑑賞会・発表会・大会などそれぞれ気を付けるべきことは異なりますが、いずれの場合も主催者・運営者としては、今まで通りのやり方に疑いを持つということが肝要です。特に飲食を伴う場面については最大の注意が必要ですが、当面は食事を伴う催事は避けるのが妥当と思われます。参加者、役員、係員の顔ぶれやタイプを想定したきめ細やかな運営が求められます。
- ②役員・係員のみならず、参加者への案内も従来通りでは不足します。如何に安全な運営を行なおうとしているか、そのためにどのような協力を求めるのかは当日以前の告知が必要であり、万一従ってもらえない場合には参加不可とするような厳然たる態度も求められます。また、催事後の健康チェック等の措置も講じる必要があります。
- ③催事におけるコロナ対策に正解はありません。これまでに各方面から報じられているような感染要因からして、直接・飛沫・エアロゾルの感染を防止することと人が移動し集合するという行為は相反することだからです。その中で催事を開催するのであれば、綿密な計画と最大限の注意が要求されるのは言うまでもありません。

2. 皆様へ

（1）催事参加者の皆様へ

- ①一般の興業と異なり、詩吟の場合はある意味で参加者も主催者側であることは前述の通りですが、参加される皆様も「従来とは違って已む無し」の意識で参加していただき、主催者・運営者に従って協力をお願いいたします。

（2）その他注意

- ①これからの季節は蒸し暑い日も多くなるためマスクを着用し続けると熱中症になる危険性があります。「3密」でない場面場所では無理せずマスクを外したり、こまめに水分補給をするなど気を付けてください。マスク着用時間が多くなると、屋外のみならず屋内でも脱水症状等を起こす危険はありますのでご注意ください。

感染症の危険は当面続くと思われませんが、斯かる時こそ気持ちまで萎縮したり吟友との人間関係が不調になったりしないよう「和をもって尊しと為す」の心持ちを大切に、皆様が元気に楽しく吟詠活動を続けられることを心より期待申し上げます。

以上